

大阪府立八尾高等学校 図書部 推薦本



ウソ交換日記

櫻 いいよ

移動教室の先で見つけた手紙。
差出人はアノ人気者の瀬戸山くん。
むき出しで入れられた手紙には、
「好きだ」
の一言だけが書かれていた。
イタズラの可能性も考慮しつつ、
恐る恐る返事を靴箱に入れた希美。
ここから、二人の交換日記が始まるが...

希美 『...私の名前、知ってるよね？』
瀬戸山 『名前くらい知ってるよ(笑
江里乃 だろ？』

“嘘”から始まった、“本物”の恋。
不器用な“演者”と、向こう見ずな“当事者”。
“これでいいはずなのに...どうして？
...どうして、胸が苦しくなるの...？”

優しい死神は、 君のための嘘をつく

著 望月 くらげ

病室で目を覚ました真尋。
突然現れた青年曰く、自分は死神で魂を貰いに来た。
君、30日以内に死んじゃうから、その代わりに
制限は多いけど、3つまでなら願いを叶えてあげる(イメージ)
とのこと。しかし、
未練？ないです。魂がいるんでしょ？早く持って行ってよ
と言って彼の言葉をバツサリと切り捨てた真尋。

変な話から始まった二人の交流は、期日間際に、彼女に
心の底から“生きたい”と思わせるほどにまで深まった。

そんな彼女に、
彼は1つの大嘘を吐いていたことを打ち明ける...

ここは“終わりの始まり”なんかじゃない。
まだ、“あなたの物語”にスタッフロールはいらない。
あなたの“人生という名の列車”の行く先には、
まだまだ“ずっと長く道は続くよ”。
だからこそ、“君にサヨナラを言わない”んだ。
“君にサヨナラ”は言わせないんだ。

70年分の夏を君に捧ぐ

著 櫻井 千姫

戦争の記憶が薄れた2015年7月。 空襲が茶飯事となった1945年7月。
東京のJKである彼女は、 広島の時計屋の娘である彼女は、
突然、70年前の広島へと 突然、70年後の東京へと

タイムスリップさせられてしまう。

突然戦時中に飛ばされ驚くも、 発展しまくった都市に驚くも、

翌日には元の時代へと戻っていた。
毎日70年もの年月を行ったり来たりする中、

彼女は、原爆投下の8月6日に、 70年後の本で、70年前の時間軸で
自分が70年前にいるということに 1月もしないうちに原爆とかいう
気づく。 爆弾が落とされる事実を知る。

お互いに「あちら側」の人と意思疎通を図るが...

彼女は、無事にあちら側で過ごす 彼女は、自身と周囲の人のために
「8月6日」から生還できたのか。 どう立ち回るのか。

そして、「あの日」を迎える――

三角の距離

二年生の開幕初日、俺が一目惚れした彼女は...
「今日転校してきたの。私は秋波、よろしく。」
でも、放課後に見た時は雰囲気は全く違っていて..

...? どうなってんだ?
見間違いでは...ないはずだし。
双子なのか...?
でも、名簿にはひとりだけ...

「ごめん秋波あ...初日からバレちゃったあ...」
選択の可能性は限りない無限。
著 岬 鷺宮

は 限 り

な い ゼ ロ

ねえ、どっちの“私”が、好き？

転校初日。
私/私は、新たなクラスメートに
一目惚れしてしまった...!!!
でも、もう一人の自分も、一緒みたい。

コレって...もしかして、三角関係ってヤツ？

私は/私だって、絶対、負けないから！

いいたいので、いいたいので、 とんでゆけ 三秋 穂

12歳。
転校前最後の日、霧子さんから
文通をしようと誘われた。
私は、瑞穂くんに
文通を申し込んだ。

17歳。
俺の学校生活は以前よりも、
ひどいものになっていた。
その一方で、霧さんは
輝かしい学校生活を
過ごしているようだった。
私は、これまで沢山辛い思いを
したけれど、もう限界...
だから、
『直接会って、
話がしたいです。』

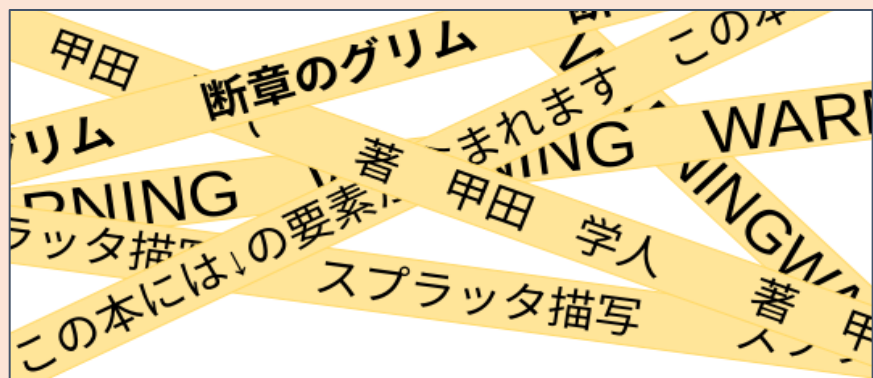
22歳。
...唯一、心の支えとなっていた
進藤がいなくなった。
もう、隠し通すのは無理なのかも
もう、
俺の心の支えになってくれるのは
彼女くらいしか...
...今になって、手紙が届いた。
もう、隠し通すのは無理なのかも
しれない。
だけど、私にはまだ
覚悟ができていない。

自棄酒に溺れ、車内でウイスキーを飲んだ俺は、

そのまま、俺は女子高生を撥ねてしまった...

...系？ *さあ撥ねたはずの彼女、
平然と立っているのですが...*

頭脳が追いつかない中、彼女は、
「こんなことしてくれたんだから、
私の復讐に、付き合ってもらおうよ！」
こうして、最期の負債の返済旅が始まる...



全能の神は、悪夢をまとめて切り離して捨ててしまった。

そしてその悪夢は、泡のように細分化されて、
人の表層意識へと浮かんでいく...

童話は子供向け？ ナニソレオイシイノ？

みんなの知ってるアノ童話やソノ童話。
原作は予想以上に恐ろしいものですよ...？

木曜日は
ココアを

著 青山 美智子

「マーブルカフェ」にて出される一杯のコーヒー。

そのコーヒーが起点となり、

東京ーシドニー間を往復するという

壮大な連鎖の末に...

一人の命を救う。

ほっと一息、ホットコーヒー。

マーブルカフェ、開店です。



ギルドレ

~ GUILD TY
CHILDREN ~

朝霧カフカ

我ら人類軍は、もうまもなく全滅する...はずだった。

...歩兵の四肢が爆散して...
...当然の軍事的帰結、皆殺しが待っていた...
...美しい都市は、今や地獄となって...
...部下からの返事はない...
...タイムリミットまで、残り48分...
...月が地球に落ちてくる...
...だが相手は人間でも動物でもなかった...
...ウサギ、いないじゃねえか...
...それもすべて無駄になった。たった数秒で...
...土地など、1平米たりとも存在しない。人類は滅びる...
...それでも構わなかった...
...敵は鉄壁の...
...支援するどころでは...
...残された武器は...
...黒い絶望に塗りつぶされ...
...もはや帰還する道も意味も...
...自決用の拳銃を投げ捨て...
...大地が呻いた...

砲弾飛び交う戦場に、民間人がいる。

...何をしている...
...やめろ...
...踏み潰されるぞ...
...そんな豆鉄砲では...
...馬鹿な、よせ...
...嘲弄しているかの...
...薄く微笑んでいるようだ...
...象の胴体ほどもある重い脚を...
...どこにあるのか...

ろくに狙いもつけず、4発。

...何度かめがくように...
...お返します...
...救世主...
...死んだ...?

その日、月は落下しなかった。
そして、救世主は姿を消した...



井上心葉

何も起こらないこと。
誰も好きにならないこと。
痛みも悲しみも絶望もなく
穏やかに生きていくこと。
そんな毎日を僕は願う。

“文学少女”シリーズ

著：野村 美月

天野遠子

これだから文学少女は。
頭の中が文学してて
現実的じゃないから、
目を離すと
何をしでかすか解らない。



お探しのものは図書室まで

著 青山 美智子

とあるコミュニケーションセンターに併設された図書室。そのベテラン司書である小町さゆりは、図書室を訪れる客のリクエストに対し、瞬時に、かつ的確にオススメ本をリストアップしてくれるのだが...

なぜかそこに一冊だけ紛れ込む関係のなさそうな本。

リストとともに渡される彼女お手製の付録。

そして彼ら来館者が人生の選択を迫られた時、その関係なさそうな本とお手製付録が劇的な変革を起こす!

付録の魔力、ご堪能あれ。

日キロちゃんのお願いは
絶対
著 岬 鷺宮

ここは、(多分)日本の端っこで、(恐らく)世界の端の方にある、海と山と坂の町、尾道。そんな町で、俺:深春は、クラスメートの日和ちゃんに告白された。流石に即決できなかったので、一晩考えた翌朝。日和ちゃんが慌てて落としていったものが。「ん...? 何これ、“お願い帳”?”

これは、終われないセカイの、最後の恋物語...?
いや待って...

...恋物語って、なんだっけ。

これが恋物語とは思えない。

僕 と 君 の 365日

著 優衣羽

色が視認できなくなりやがて死に至る、無彩病に罹ってしまった蒼井。そんな蒼井に、わざわざ特進コースから自ら志願して一般コースに降りてきたという緋菜は言う。

「やっぱり、無彩病なんだね。」

「死ぬまでの一年間、付き合っただけ。」

「大丈夫だよ。」

「悲劇で終わっても、あなたの隣にいたい。」

「ずっと一緒にいるよ、ひとりにさせない」

「蒼也くんを思い出にするつもりはない」

「最期まで笑っていよう。」

これは、誰も知らないハッピーエンド。主人公すら知らない、トゥルーエンド。真実は、個人がそれぞれ持っているもの。他人の真実を知っている人なんて、いない。

この世界には、多種多様な国があり、国の数だけ人びとがいる。

勿論、その中にはかなり特殊な国もある。

例を挙げるとすれば、

- ・年中移動する国
- ・年中黒い液体を燃やし続ける国
- ・国民全員マスクマンになっている国
- ・領土全体が船である国

そんなただっ広い世界を、延々と旅をする団体もいる訳で。

この本は、

“銃使いの少女”キノ & “喋るモトロード”エルメス ペア

(注 モトロード=二輪車。空を飛ばない物のみを指す)

“刀の達人の青年”シズ & “喋る犬”陸 & “爆弾少女”ティー トリオ

“キノの先生”シショー & “使いつ走り”助手 ペア

“写真大好き少女”フォト & “喋る折り畳みモトロード”ソウ ペア

“あとがきの概念クラッシャー”時雨沢恵一

の5組が、時には平穏に、時には激しく、

彼らの日常(?)を過ごす物語である。

世界は、美しくなんか無い。

国の数だけ未来があれば、国の数だけ物語がある。

そう、国は、まるで星のよう。

どこかで新たに生まれ、またどこかでは消滅し、

更に別のどこかでは衝突している。

the Beautiful World

キノの旅

仮面山荘殺人事件

東野 圭吾

〈あらすじ〉

主人公・樫間高之が死んでしまった。婚約者の父親から別荘に招待されるが、そこで銀行強盗の二人組が逃げ込んできて、滞在者全員を監禁するという事件が起こる。そして、ついに別荘内で謎の殺人事件が起こり……。

この作品は、ストーリーがとても分かりやすく、なっていて、ミステリーが苦手な人でも読みやすいと思います。また、招待客たちと二人組の強盗との息詰まる駆け引きがテンポ良く書かれており、最後まで続きが気になる展開になっていきます。そして、クライマックスに達した時、とんでもないドンデン返しを待ち構えています。

私は、読み進めていく度に、作品に飲み込まれていき、クライマックスにたどり着いた時、「やられた。」という気持ちになりました。みなさんも、是非手に取ってみてください。